

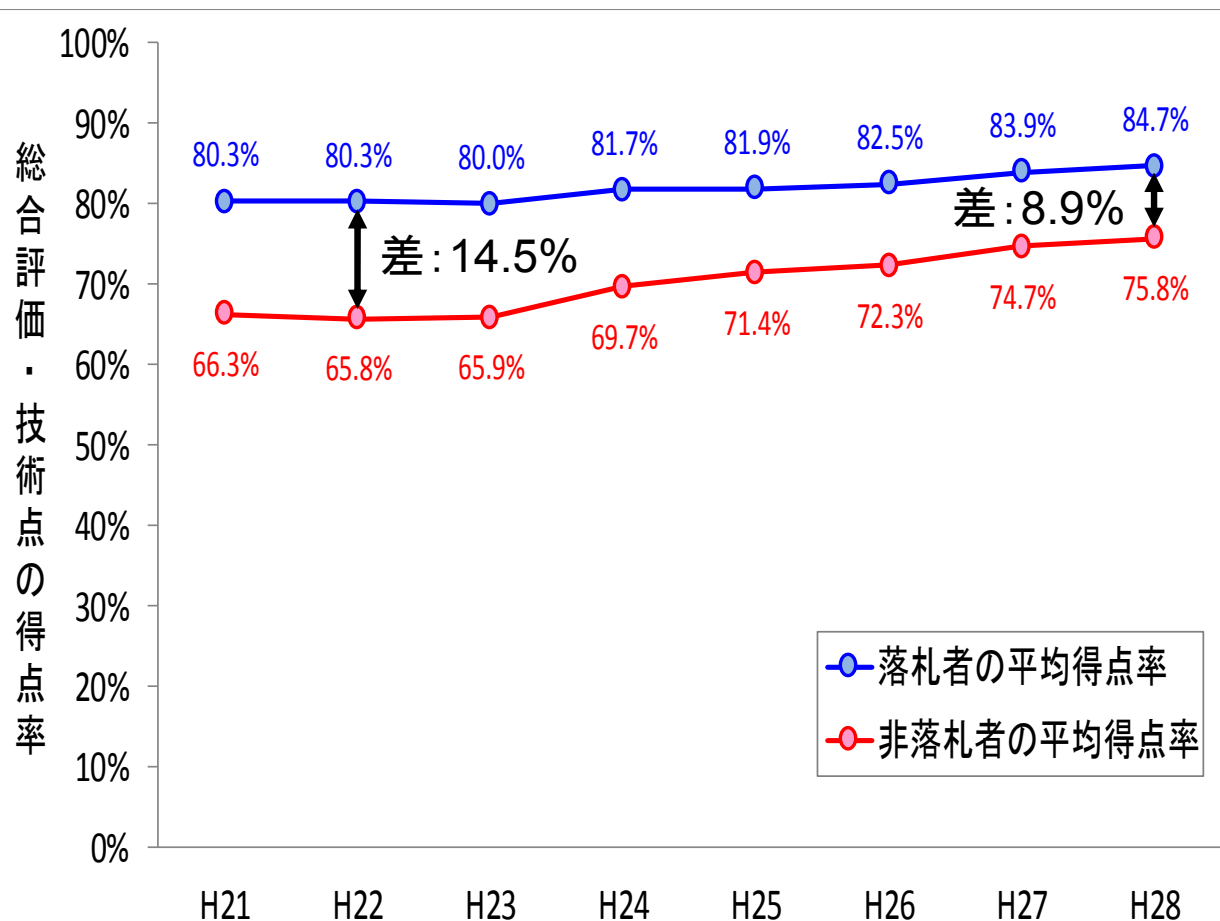
# 総合評価落札方式の改善について

---

# 1) 総合評価落札方式の現状分析

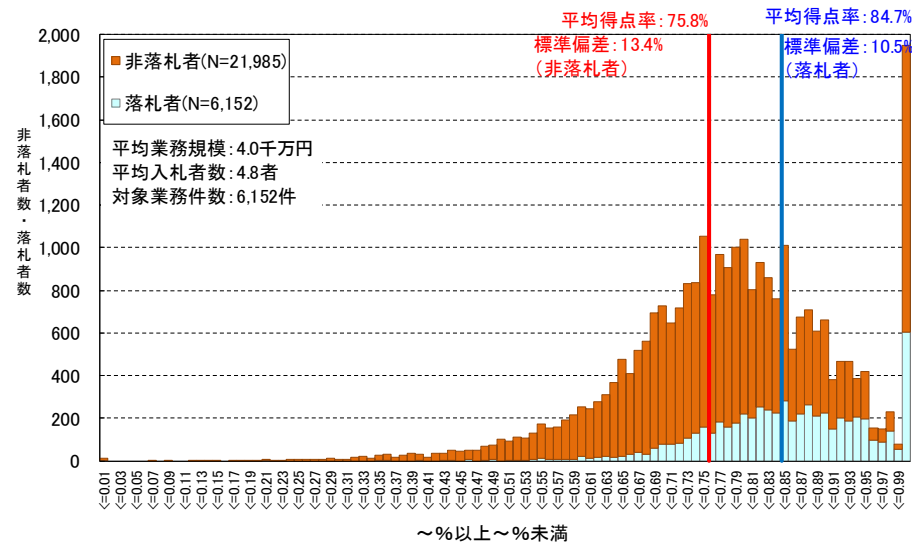
# 総合評価落札方式の技術点の得点率

- 総合評価落札方式の落札者の技術点の平均得点率は、経年的に上昇  
非落札者の平均得点率も上昇
- 一方で、落札者と非落札者の得点率の差は、経年的に縮小



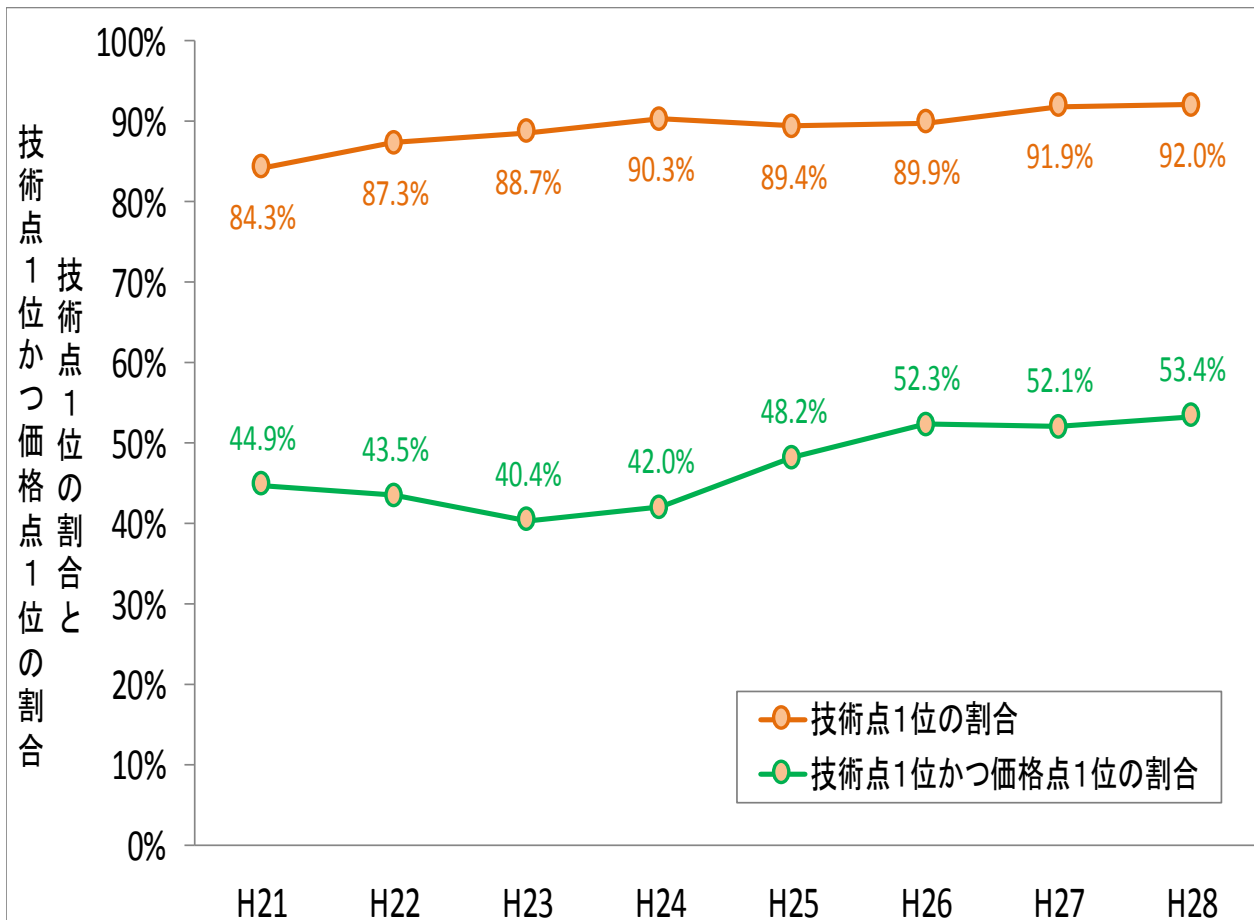
※北海道開発局+8地方整備局の業務を対象(港湾・空港関係を除く)。 ※入札者数(非落札者数)に無効・辞退等を含まない。

## 総合評価落札方式 技術点得点率の分布 (平成28年度)

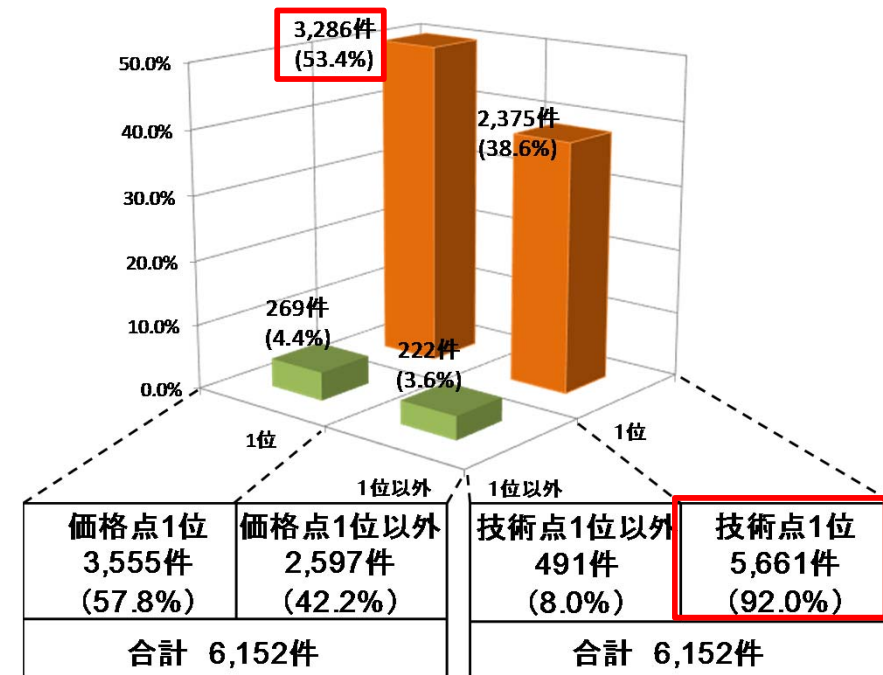


# 総合評価落札方式の落札者と順位との関係

- 総合評価落札方式の技術点1位の者は、全体の9割で落札者となっている(H28年度)。
- 技術点1位の者が落札する割合は、経年的に増加傾向。  
一方で、技術点1位かつ価格点1位の者が落札する割合も増加傾向にある。

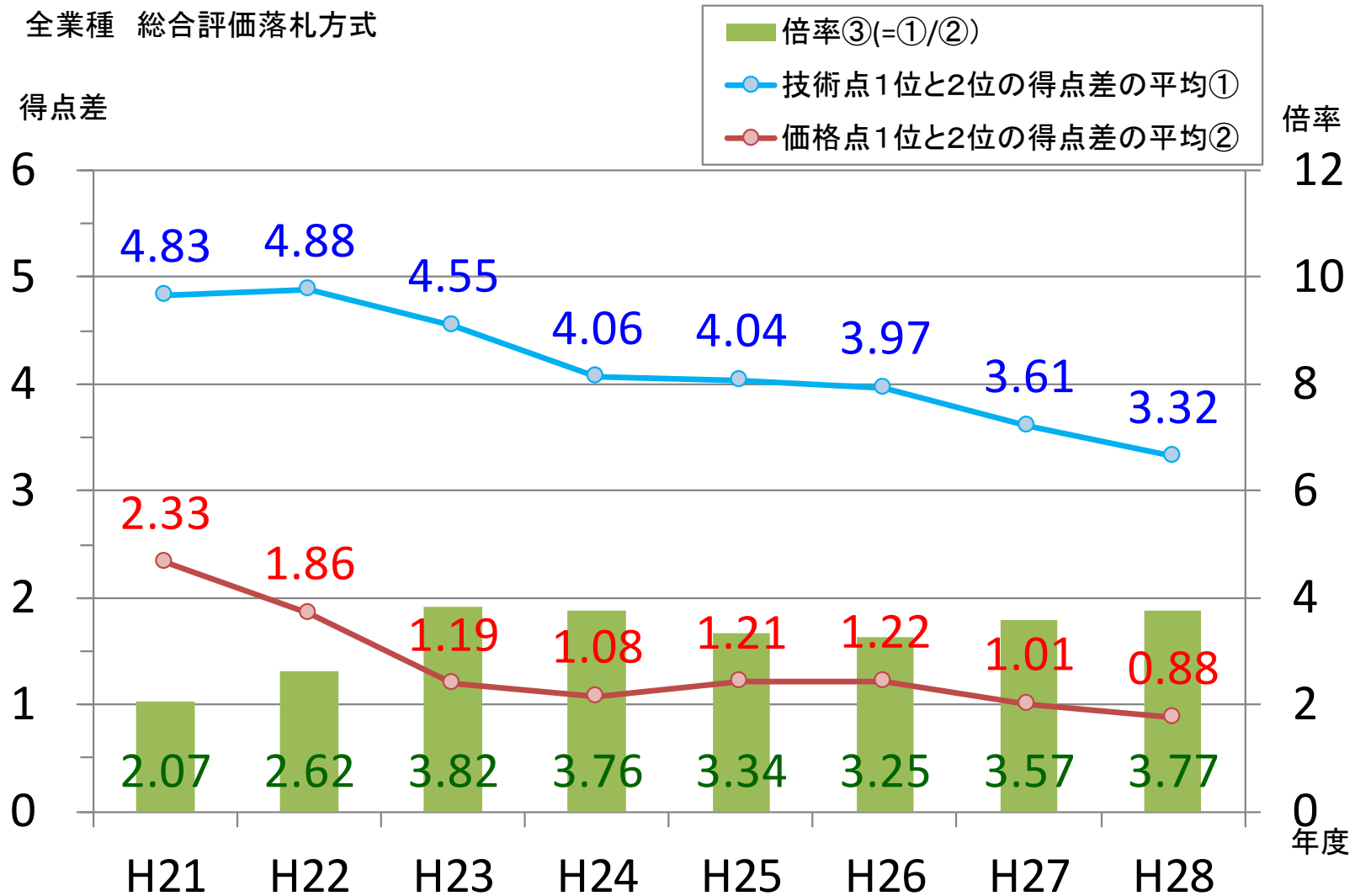


総合評価落札方式  
価格点・技術点 順位別落札状況  
(平成28年度)



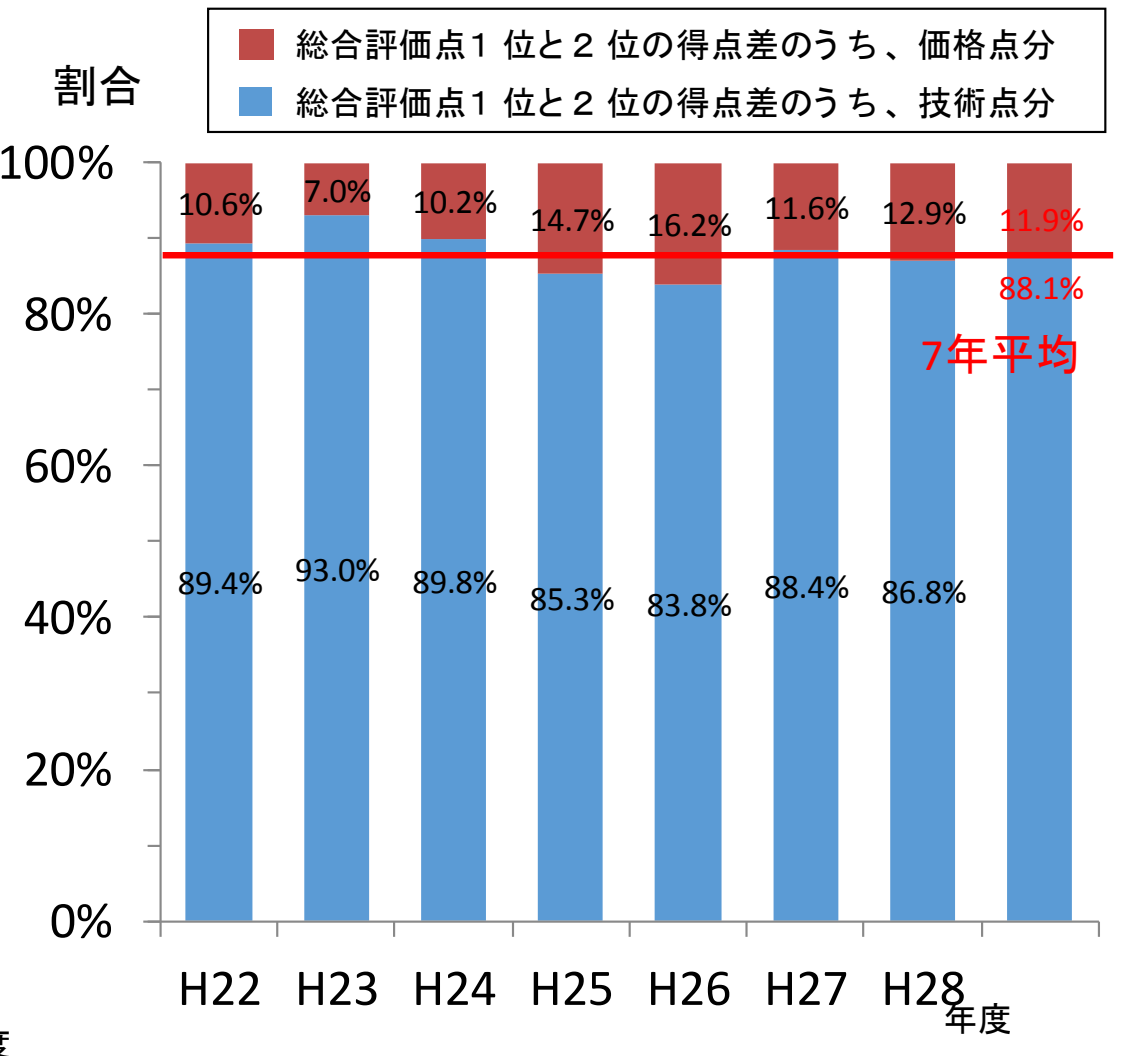
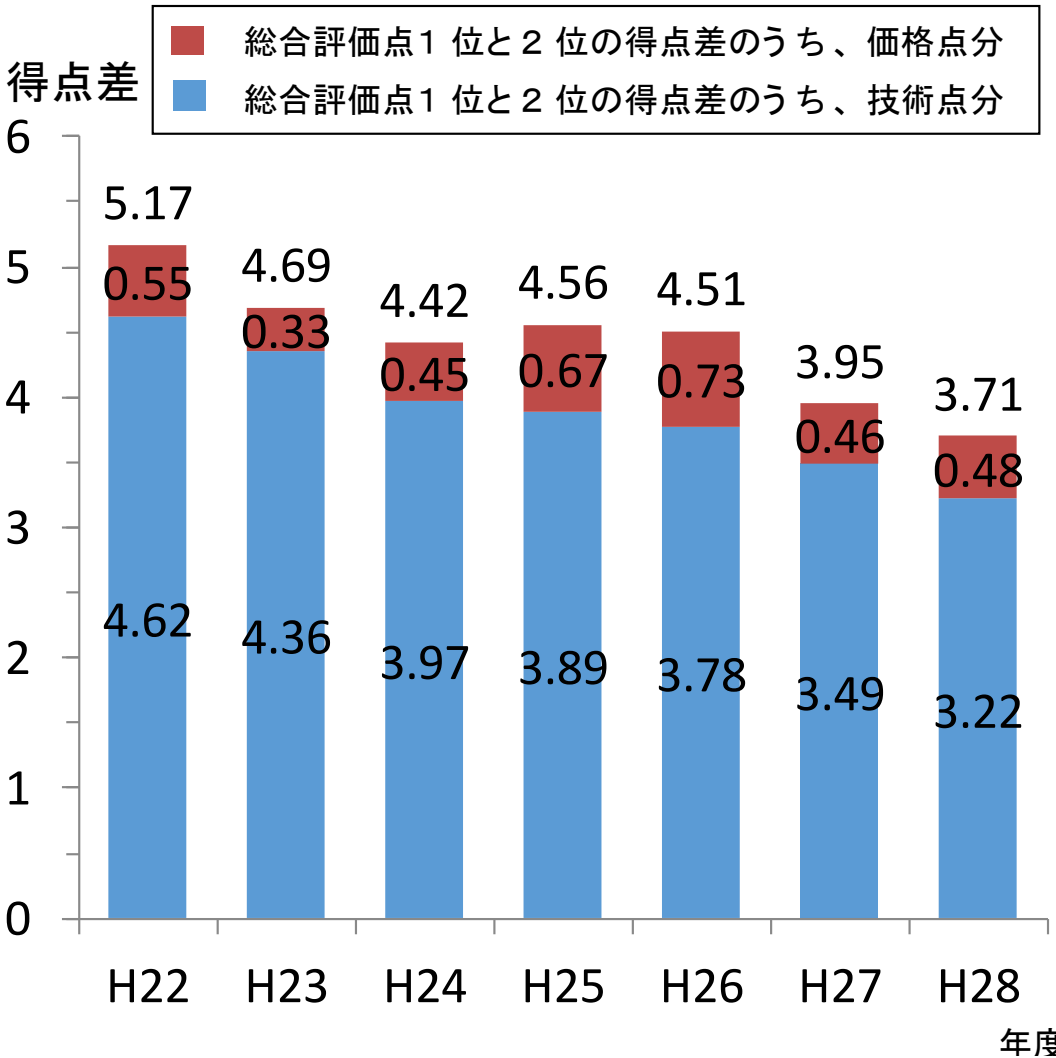
# 技術点／価格点 1位と2位の得点差の平均（全配点比率）

- 技術点1位と2位の平均得点差は経年的に縮小(4.88点(H22)→3.32点(H28))。
- 価格点1位の者と2位の者の平均得点差は，平成23年度以降は1.1程度で推移。
- 平成23年度以降の技術点の得点差と価格点の得点差を比較すると、技術点は3倍を超える得点差が確保されている。



# 総合評価点 1位と2位の得点差の平均、差の内訳（全業種）

- 総合評価点（価格点＋技術点）の1位の者と2位の者の平均得点差は経年的に縮小傾向（5.17点(H22)→3.71点(H28)）。
- 総合評価点の得点差のうち、技術点分は経年的に縮小傾向であるものの、差の内訳の価格：技術のバランスに大きな変動は生じていない。

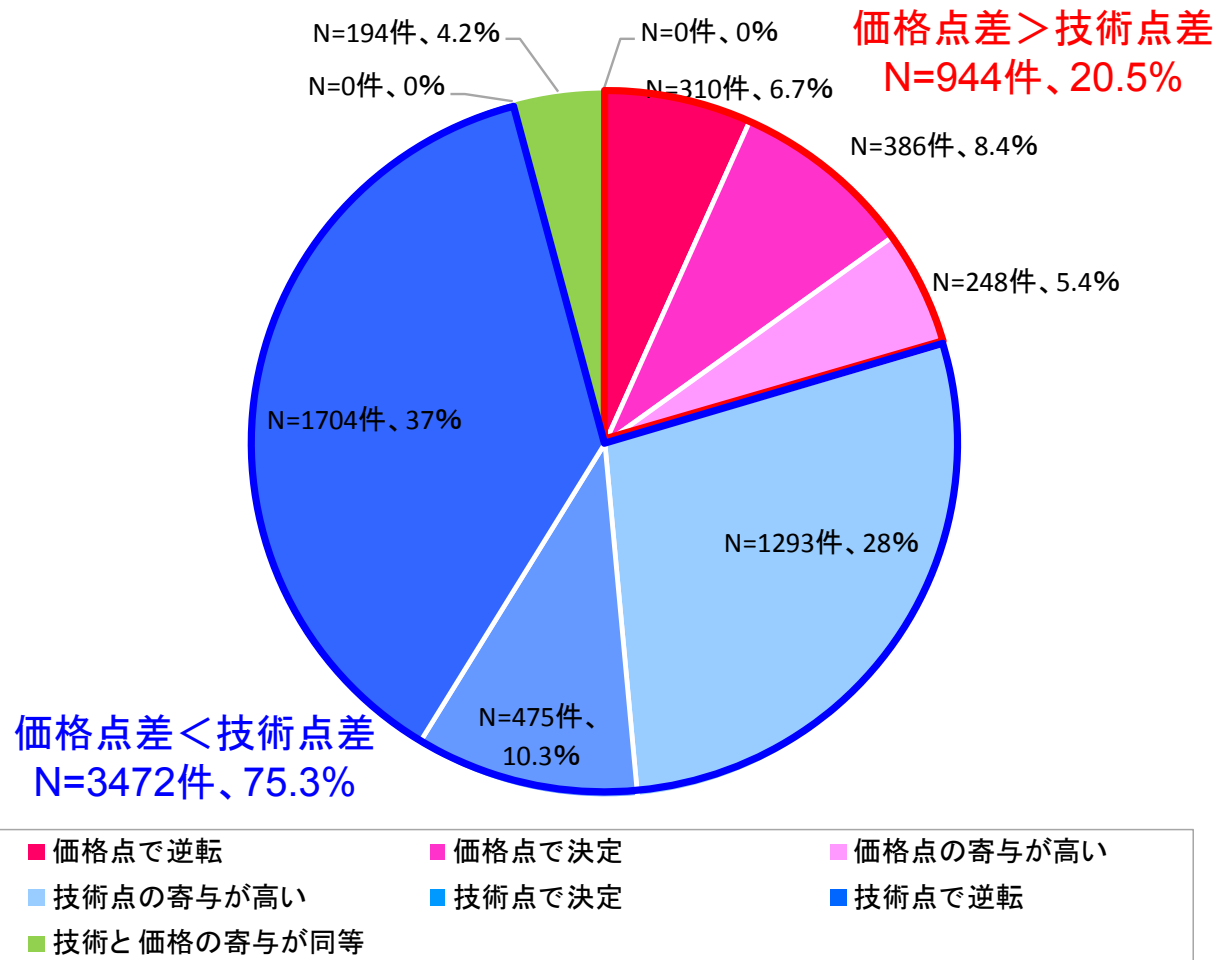


集計条件：北海道開発局＋8地方整備局（港湾空港関係、農林水産関係を除く）の総合評価落札方式で、予定価格以下の入札参加者が2者以上の業務。

# 総合評価点 1位と2位の価格点差・技術点差の比較分類

## 総合評価点 1位と2位の技術点差・価格点差の比較分類（平成28年度 全業種）

- 総合評価点の1位と2位の技術点差が価格点差を上回った業務は75.3%(3,472件)、価格点差が技術点差を上回った業務は20.5%(944件)、技術点差と価格点差が同値の業務は4.2%(194件)。
- 技術点差で価格点差を逆転した業務は37.0%(1,704件)。価格点差で技術点差を逆転した業務は6.7%(310件)。

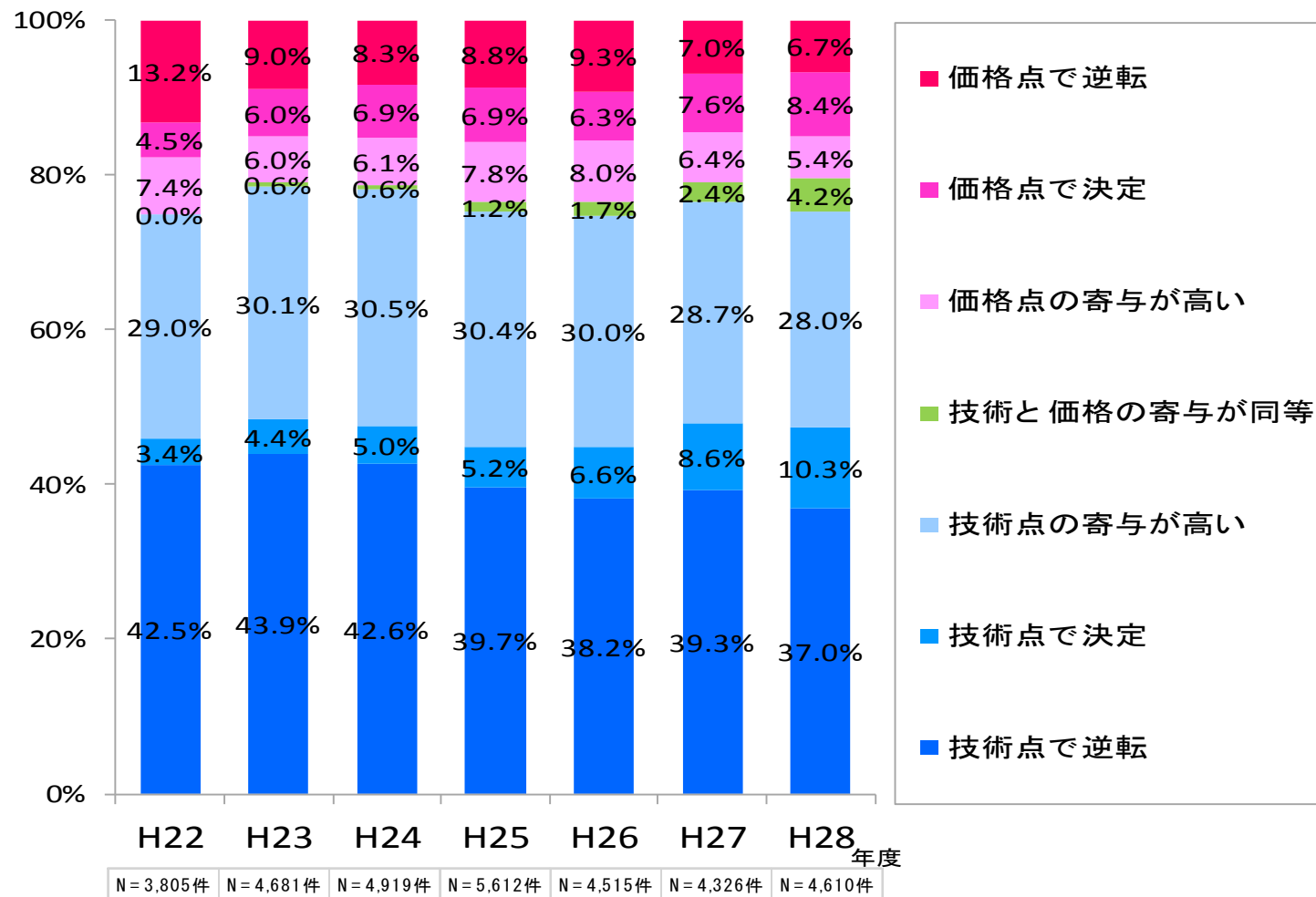


# 総合評価点 1位と2位の価格点差・技術点差の比較分類

## 総合評価点 1位と2位の技術点差・価格点差の比較分類（平成28年度 全業種）

○ 総合評価点の1位と2位の価格点差・技術点差の比較による落札決定要因の分類を経年的に見ると、約4分の3の業務で技術点差が価格点差を上回っており、この割合の経年的な増減傾向は生じていない。

価格点差>技術点差	25.1%	21.0%	21.3%	23.5%	23.5%	21.0%	20.5%	7年平均：22.3%
価格点差=技術点差	0.0%	0.6%	0.6%	1.2%	1.7%	2.4%	4.2%	7年平均：1.5%
価格点差<技術点差	74.9%	78.4%	78.1%	75.3%	74.8%	76.6%	75.3%	7年平均：76.2%



集計条件：北海道開発局+8地方整備局(港湾空港関係、農林水産関係を除く)の総合評価落札方式で、予定価格以下の入札参加者が2者以上の業務。



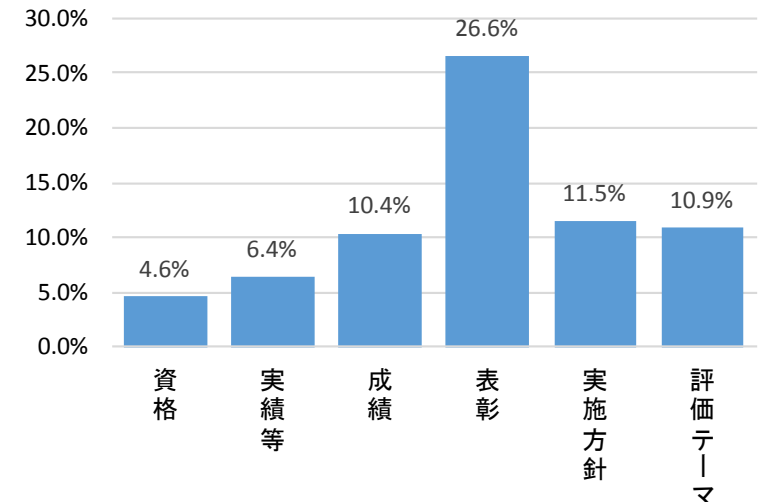
# 評価項目別の得点率

- 各評価項目のうち、「資格」・「実績等」の平均得点率は高い傾向
- 「表彰」の平均得点率の差は、他の項目より大  
(保有の有/無が評価点の加点の有/無に直結)
- 「実施方針」、「評価テーマ」の平均得点率の差は、「表彰」を除く他の項目より大

技術評価 評価項目別の得点率 (平成28年度 第1四半期 実績※)

	予定技術者				技術提案等	
	資格	実績等	成績	表彰	実施方針	評価テーマ
各項目1位の者						
①平均値	99.0%	99.2%	86.1%	71.4%	80.9%	77.6%
標準偏差	5.0%	5.9%	13.5%	41.8%	12.8%	18.9%
全入札参加者						
②平均値	94.4%	92.8%	75.7%	44.8%	69.4%	66.7%
標準偏差	13.1%	14.6%	18.9%	43.5%	16.7%	19.4%
差						
①-②	4.6%	6.4%	10.4%	26.6%	11.5%	10.9%

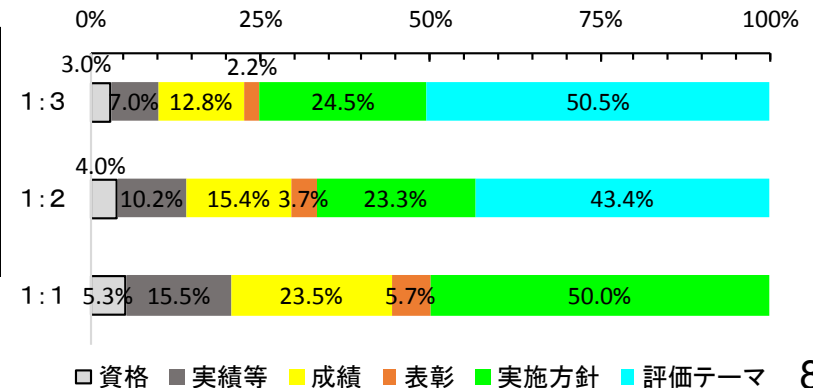
評価項目別の1位の平均得点率と全入札参加者の平均得点率の差



【参考】技術評価 配点割合の平均値 (平成28年度 第1四半期 実績※)

評価ウエイト	予定技術者				技術提案等	
	資格	実績等	成績	表彰	実施方針	評価テーマ
1:3	3.0%	7.0%	12.8%	2.2%	24.5%	50.5%
1:2	4.0%	10.2%	15.4%	3.7%	23.3%	43.4%
1:1	5.3%	15.5%	23.5%	5.7%	50.0%	-

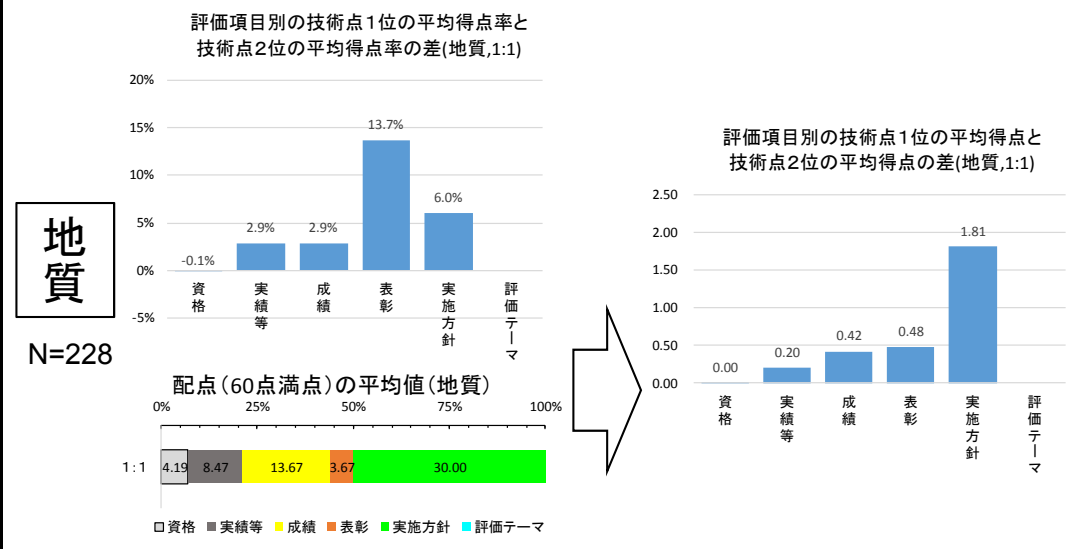
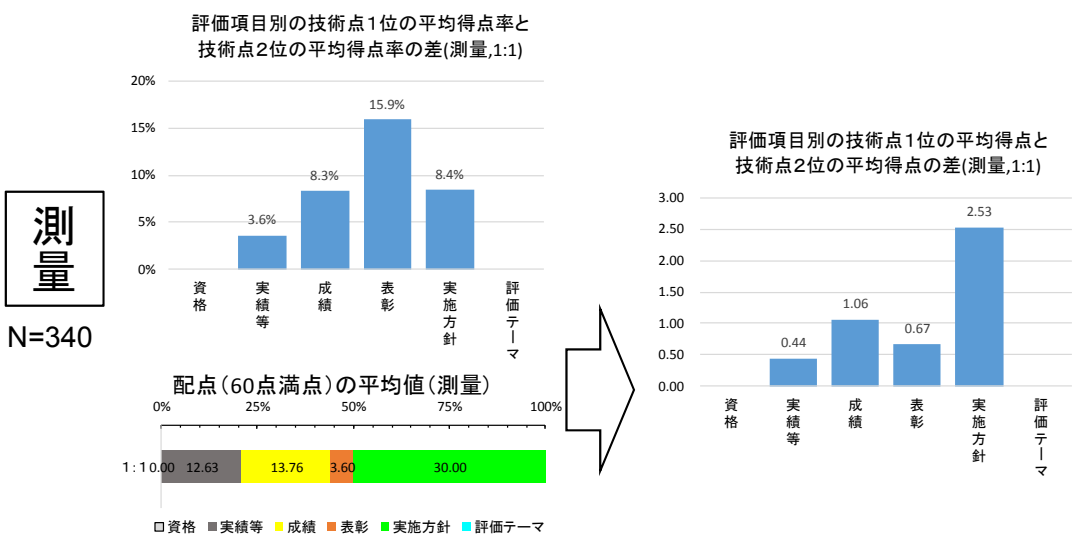
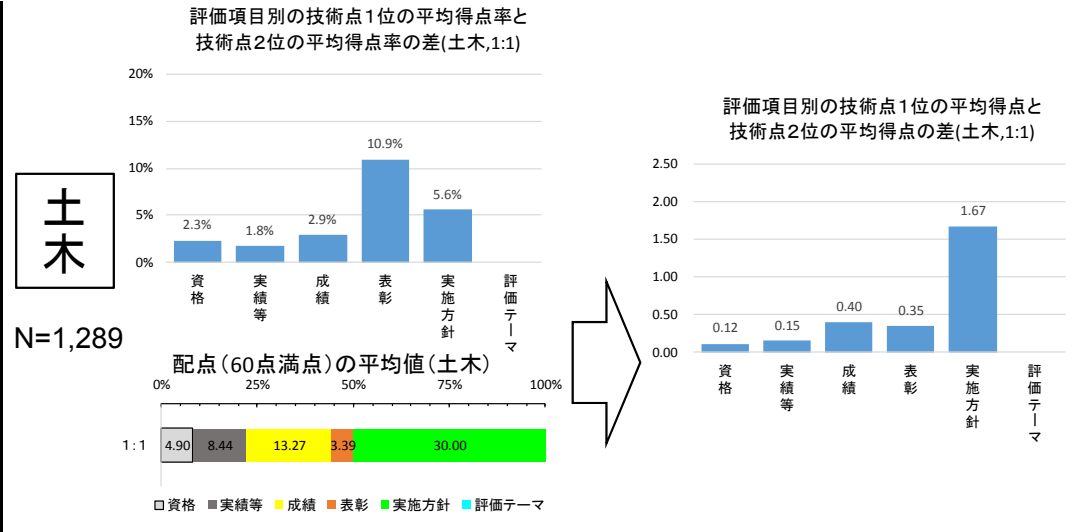
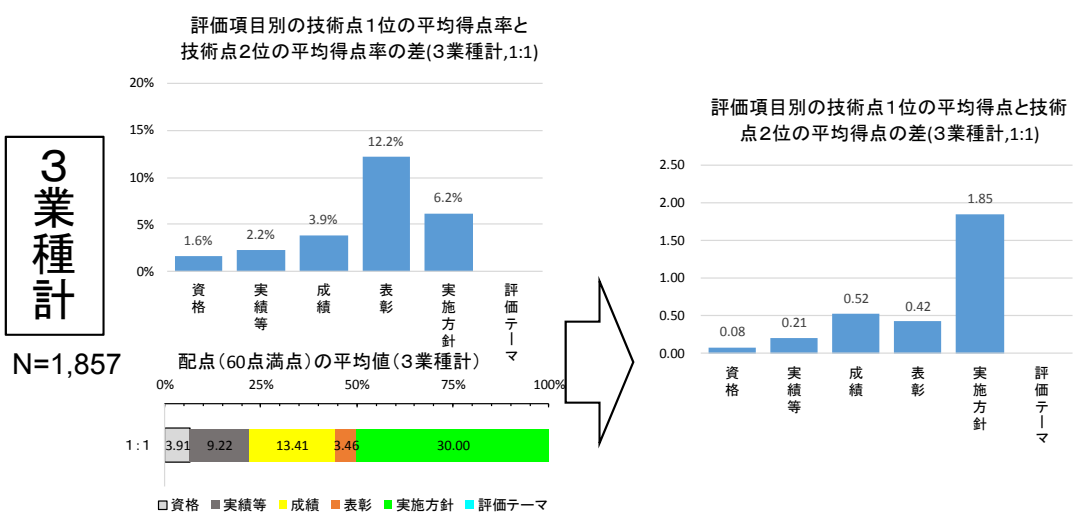
配点割合の平均値



※平成28年第1四半期契約の北海道開発局+8地方整備局の業務を対象(港湾・空港関係、発注者支援業務等を除く)。数字は速報値のため、今後の精査により、変更することがある。

# 技術評価項目の得点率差・配点・得点差 (3業種計/土木/測量/地質、1:1)

- 技術点の合計が1位の者と2位の者の各評価項目の得点率を比較すると、3業種計では得点率の差が大きい順に、表彰、実施方針、成績、実績等、資格の順となった。
- 各業務の配点ウエイトを考慮して、各評価項目の平均得点(60点満点換算)を比較すると、3業種計では平均得点の差が大きい順に、実施方針、成績、表彰、実績等、資格の順となった。



※集計条件:平成28年度に北海道開発局+8地方整備局が契約した業務(港湾空港関係業務、農林水産関係業務を除く)。発注方式:総合評価落札方式。予定価格以下の入札参加者が2者以上の業務、配点がガイドラインの範囲内の業務。

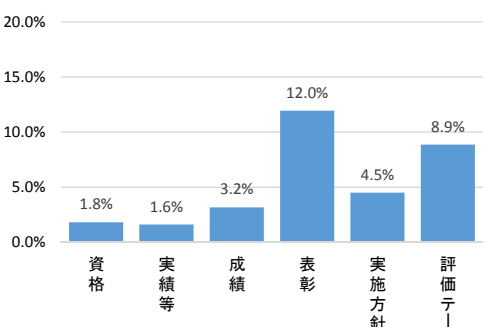
# 技術評価項目の得点率差・配点・得点差（3業種計、1:2/1:3）

- 技術点の合計が1位の者と2位の者の各評価項目の得点率を比較すると、1:2と1:3のいずれも得点率の差が大きい順に、表彰、評価テーマ、実施方針、成績の順となった。
- 各業務の配点ウエイトを考慮して、各評価項目の平均得点(60点満点換算)を比較すると、1:2と1:3のいずれも平均得点の差が大きい順に、評価テーマ、実施方針の順となった。また、技術提案部分の得点差の合算値は、予定技術者に係る項目の差の合算値よりも大きくなった。
- 1:2について、評価テーマの得点差(A=2.31)と、実施方針の得点差(B=0.69)を、それぞれの配点(WA=26.16、WB=13.76)と比較すると、 $A/B=3.35$ 、 $WA/WB=1.90$ となり、配点ウエイト以上に評価テーマで得点差がついた。1:3についても、1:2と同様、配点ウエイト以上に評価テーマで得点差がついた。

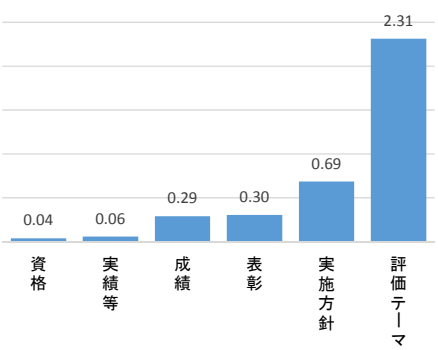
**1:2** N=198  
(内訳：土木172, 測量4, 地質22)

**1:3** N=92  
(内訳：土木86, 地質6)

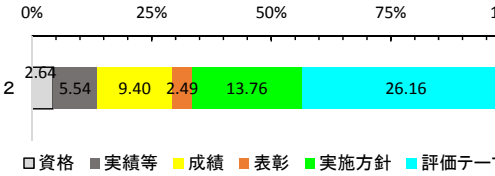
評価項目別の技術点1位の平均得点率と技術点2位の平均得点率の差(3業種計,1:2)



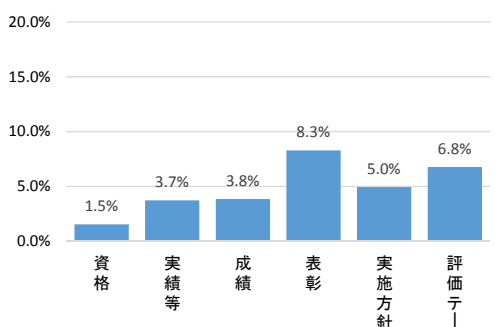
評価項目別の技術点1位の平均得点と技術点2位の平均得点の差(3業種計,1:2)



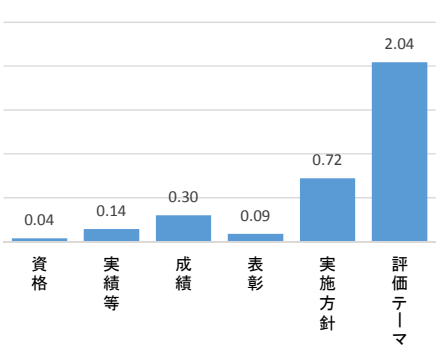
配点(60点満点)の平均値(3業種計)



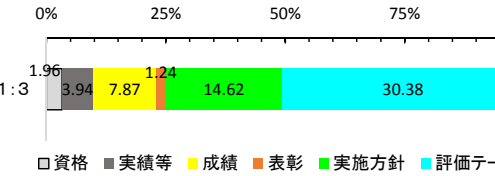
評価項目別の技術点1位の平均得点率と技術点2位の平均得点率の差(3業種計,1:3)



評価項目別の技術点1位の平均得点と技術点2位の平均得点の差(3業種計,1:3)



配点(60点満点)の平均値(3業種計)



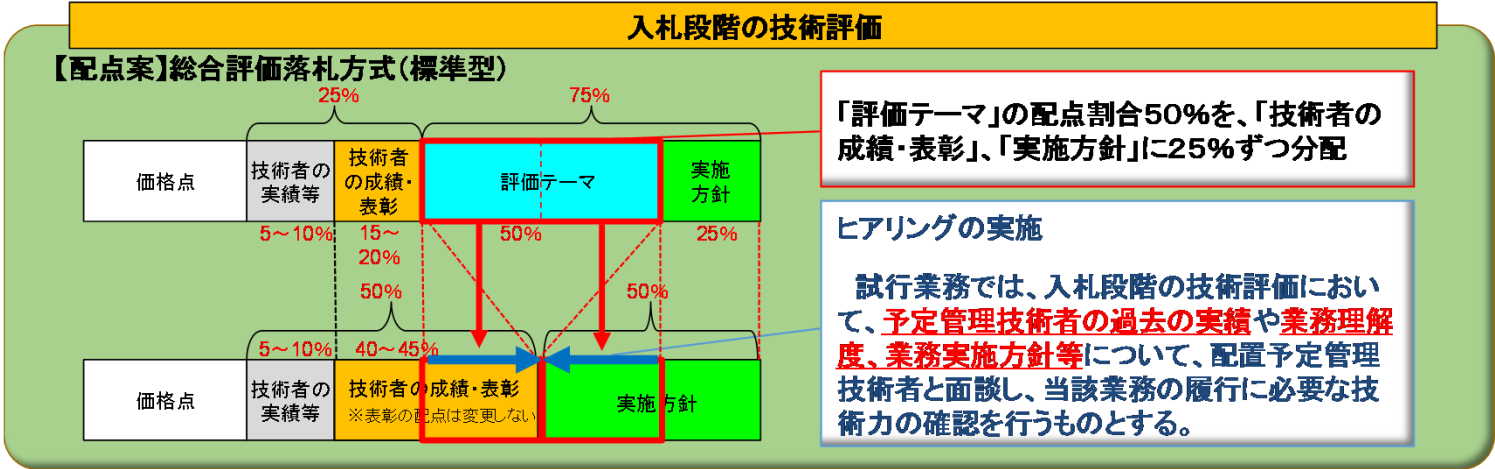
※集計条件：平成28年度に北海道開発局+8地方整備局が契約した業務(港湾空港関係業務、農林水産関係業務を除く)。発注方式：総合評価落札方式。予定価格以下の入札参加者が2者以上の業務、配点がガイドラインの範囲内の業務。10

## 2) 技術者評価を重視した選定(試行) に関する報告

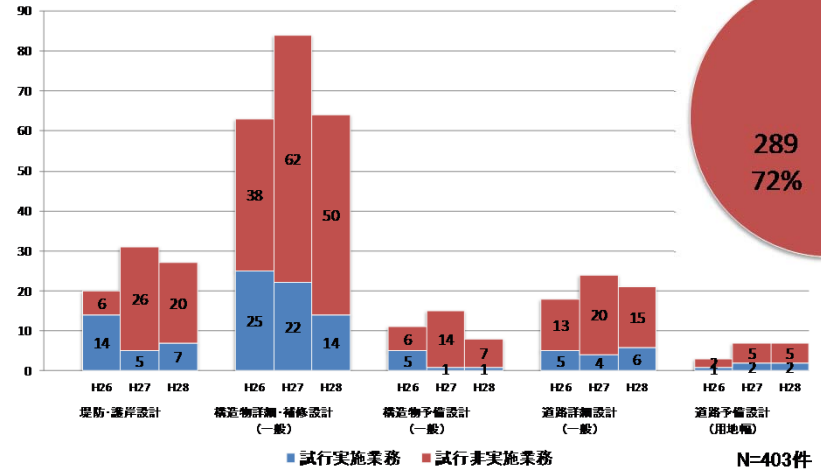
# 技術者評価を重視した選定の概要

➤ 受注者、発注者双方の負担軽減のため、「評価テーマに代えて、技術者の過去の成績と実施方針に重点配分」の試行を実施中（H26.6.16公示案件から）

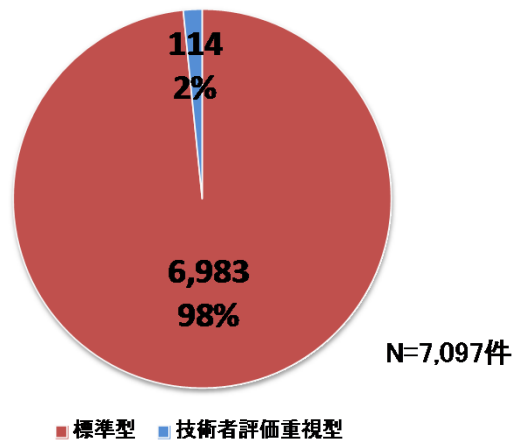
- 対象工種：河川事業：堤防・護岸設計  
道路事業：道路予備（用地幅）、構造物予備（一般）、構造物詳細・補修設計（一般）、道路詳細（一般）
- 試行規模：実施件数は、上記工種毎に2割程度
- 発注方式：総合評価落札方式（1：3）



試行対象工種における実施状況



総合評価（標準型）に占める実施割合



# 入札の競争性・占有率

- 入札参加について、1業務当たりの参加表明者数、1業務あたり入札参加者数とも、試行実施業務と非実施業務の間で、大きな差は生じていない。
  - 落札状況について、試行実施業務の入札参加上位5社占有率、落札上位3社占有率とも、**試行実施業務と非実施業務の間で、大きな差は生じていない。**
- 試行業務での入札参加・落札の特定業者へ偏りは見られない。

## 試行実施業務と試行非実施業務の入札参加・落札等の傾向

	a	b	b/a	c	c/a
	業務件数	延べ参加表明者数	1業務当りの参加表明者数	延べ入札参加者数	1業務当りの入札参加者数
試行実施業務	114	1,011	8.9	888	7.8
試行非実施業務	289	2,585	8.9	2,127	7.4

	d	d/c	e	e/a
	入札参加上位5社の延べ参加件数	入札参加上位5社占有率	落札件数上位3社の総落札件数	落札上位3社占有率
試行実施業務	231	26%	28	25%
試行非実施業務	564	27%	65	22%

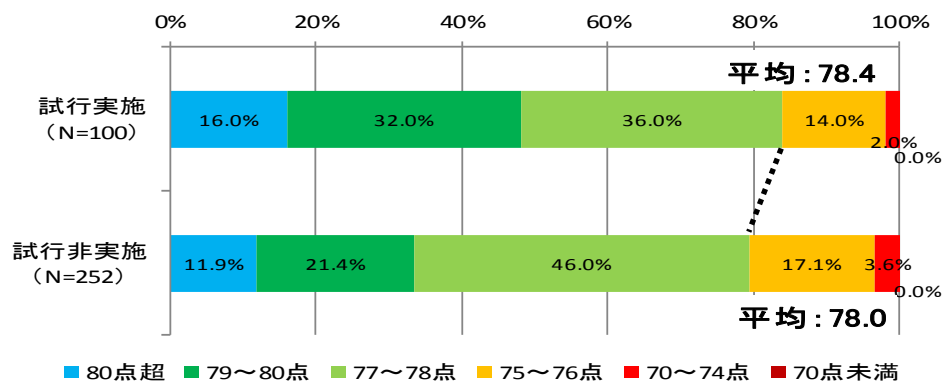
# 工種別業務成績評定点

・業務成績評定点について、**大きな差は見られない。**

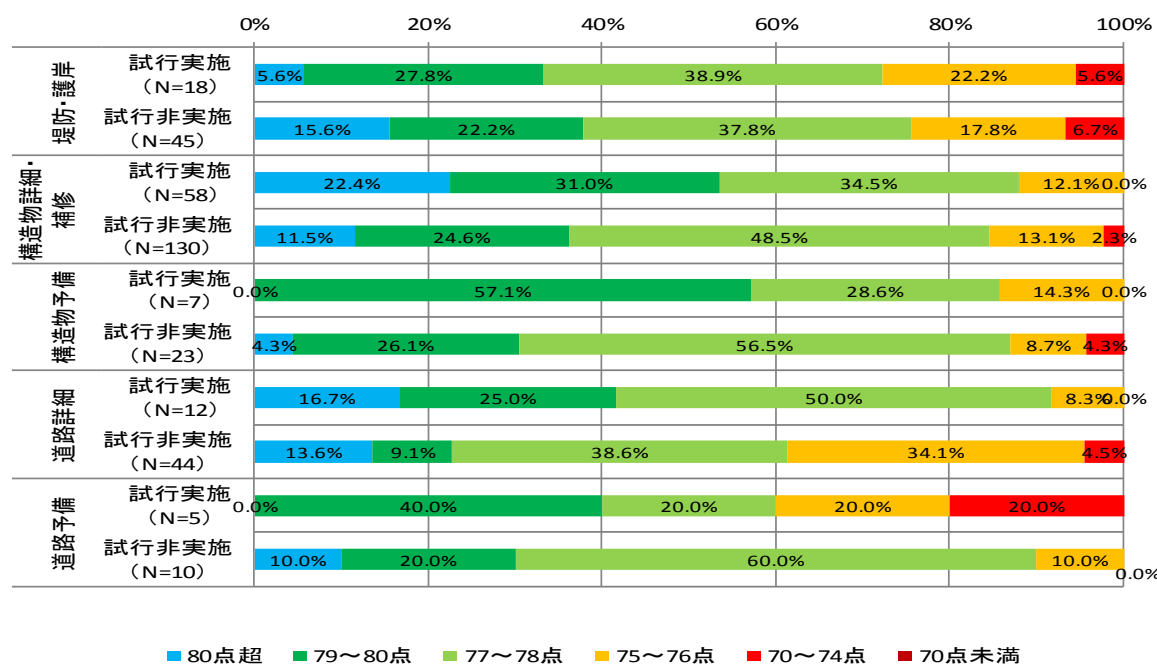
## 1. 工種別業務成績評定点平均

工種	実施件数		業務成績評定点平均	
	試行実施	試行非実施	試行実施	試行非実施
堤防・護岸設計	18	45	77.5	77.8
構造物詳細・補修設計(一般)	58	130	78.8	78.2
構造物予備設計(一般)	7	23	78.3	77.9
道路詳細設計(一般)	12	44	78.6	77.4
道路予備設計(用地幅)	5	10	77.0	78.3
合計	100	252	78.4	78.0

## 2. 業務成績評定点分布



## 3. 工種別業務成績評定点分布



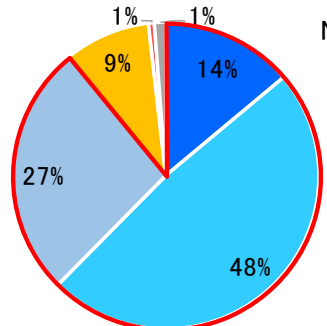


# 入札参加者・発注者アンケート調査結果(概要)

- 入札参加者では「事務の簡素化」、発注者では「技術力の評価」について試行への肯定的な意見が多数を占めた。
- 入札参加者から業務に応じた柔軟な発注方式に関する意見等があった。

## 事務の簡素化

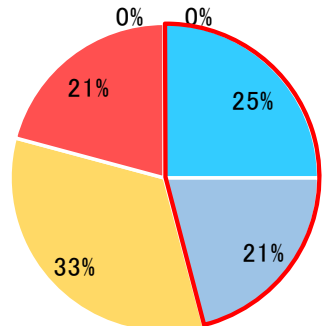
【入札参加者】技術提案書作成の負担



- 大いに軽減された
- 軽減された
- やや軽減された
- 特に変化はない
- 負担が増加した
- わからない

➤ 入札参加者の9割が技術提案書作成負担が軽減したと回答。

【発注者】入札・契約事務の負担の軽減



➤ 発注者の46%が入札・契約事務負担が軽減したと回答。

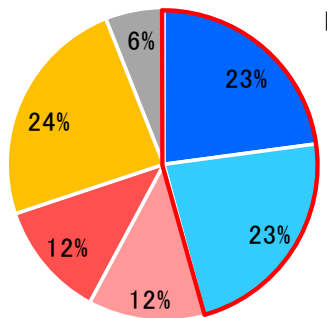
## 主な自由意見

### 入札参加者

- ◆ 評価テーマが無い場合、時間の短縮または人員の軽減が図れる。
- ◆ 価格点のウェイトが下がることにより応札価格が比較的高くなる。
- ◆ 技術者成績が重視されると、新規で参入しても採用される可能性が低くなると思う。
- ◆ 過去の成績に重点を置いた評価が進めば、若手技術者の活躍の場が縮小していく懸念。
- ◆ 画一的な発注方式をとるのではなく、評価テーマを残す等、企業及び人材の特色に合わせられる選択肢を残して欲しい。

## 技術力の評価

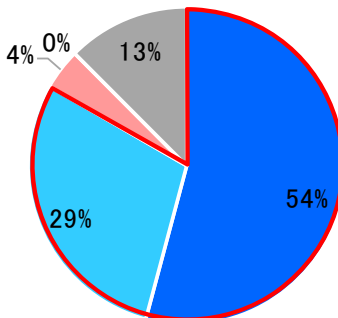
【入札参加者】技術者の技術力の評価



- 評価された
- やや評価された
- やや評価されなかった
- 評価されなかった
- どちらとも言えない
- わからない

➤ 入札参加者の46%が技術者の技術力が評価されたと認識

【発注者】十分な技術力を有する者との契約



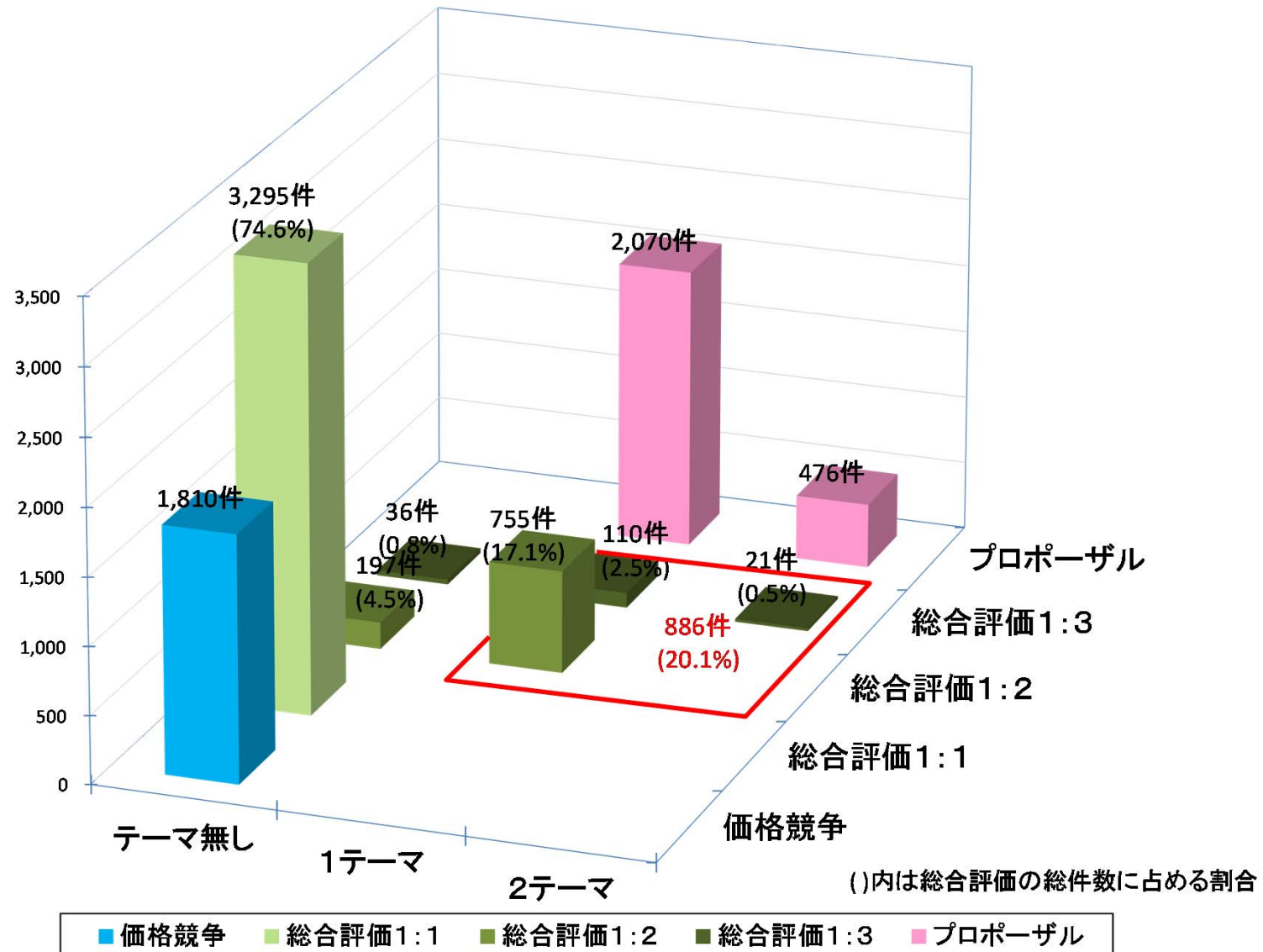
- 適切な業者と契約ができた
- どちらかと言えば適切な業者と契約できた
- どちらかと言えば適切な業者と契約できなかった
- 適切な業者と契約できなかった
- 判断が困難である

➤ 発注者の83%が技術力を有する者と適切な契約ができたと回答。



# まとめ：発注方式別・テーマ数別契約件数(平成28年度)

- 総合評価落札方式で評価テーマに対する技術提案を求めた業務は886件(総合評価の20.1%)。
- 総合評価(1:3)で2テーマを設定した業務は21件(総合評価の0.5%)で、総合評価全体に占める割合は限定的。また、総合評価(1:3)で1テーマ(110件)の方が、発注件数が多い。



集計条件：平成28年度に地方整備局及び北海道開発局が発注した土木・測量・地質の3業種(発注者支援業務等を除く)のうち、評価テーマ数を確認できた8,770件を対象に分類。

### 適切な入札・契約方式の選定

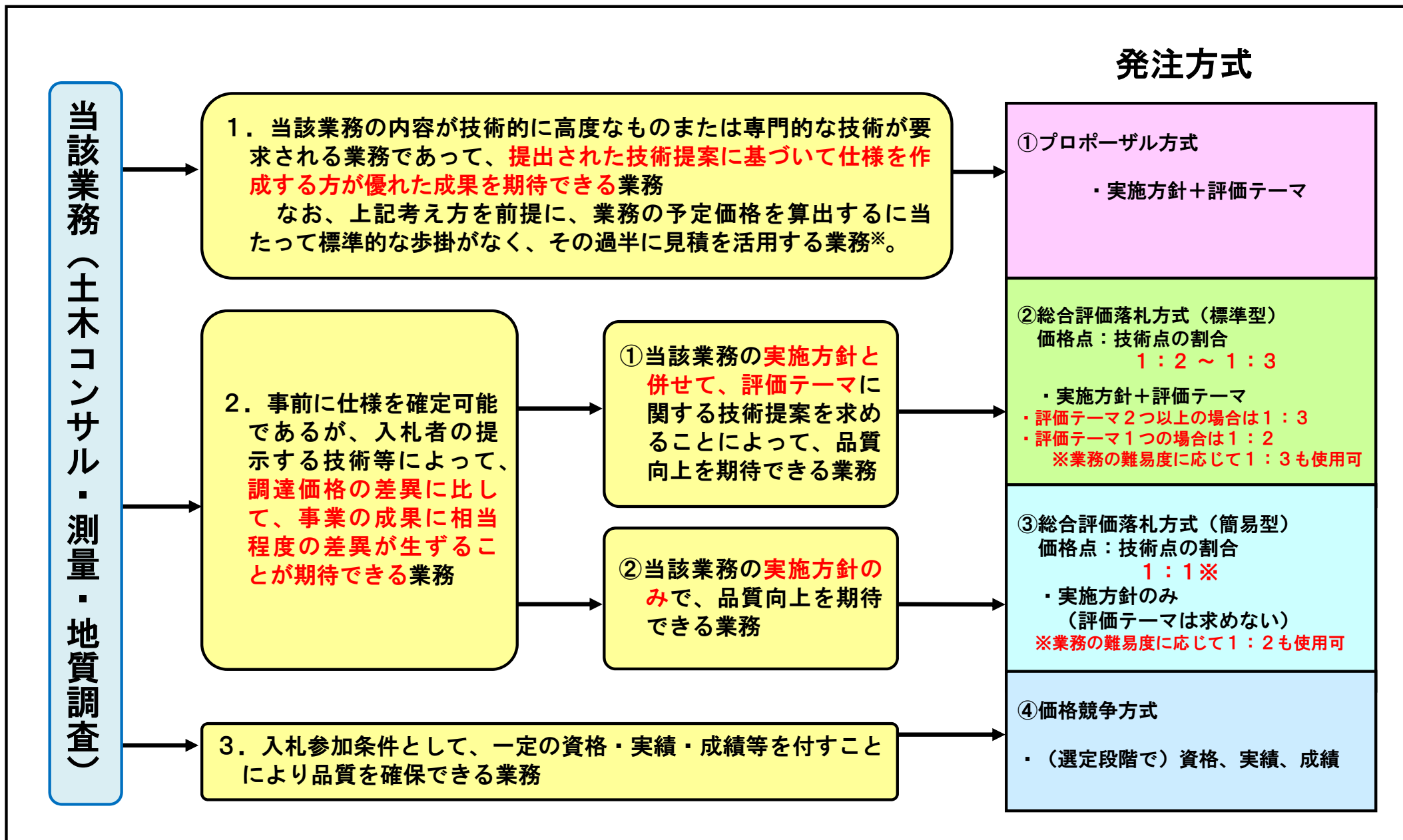
- ◆ 建設生産・管理システムのマネジメントを効果的・効率的に行うためには、上流側の計画・調査・測量・設計業務における品質確保が重要
  - ◆ このため、業務の特性、地域の実情、入札・契約手続きの取引コスト等を勘案しつつ、より技術力を重視する入札・契約方式の選定にシフトする必要はないのか
- 上記を踏まえ、平成30年度は、下流側の設計・工事の効率化を図るため、事業の初期段階における、地質調査業務では「地質リスク調査検討」を、測量業務では「3次元地形データ」を調査に含めることとし、高度な技術が要求されるプロポーザル方式等にて発注することを検討

### 総合評価落札方式の改善

- ◆ 評価項目の現状のウェイトを維持するとともに、実施方針や評価テーマにおける得点差の要因分析を行うこととするが、他に留意すべきことはないか  
総合評価落札方式(1:3)の試行結果より一定の効果は確認されていることから、試行を継続するとともに、ヒアリングの実施方法等を把握・分析することとするが、他に留意すべきことはないか
- ◆ また、技術力の差を適切に評価するために、平成30年度は下記の様な試行を検討してはどうか
  - ① 技術評価テーマ  
詳細設計業務において、下流側の工事段階での品質向上や生産性向上等を図るため、技術評価点においてより適切な得点差が生じることを期待し、「実施方針」に新技術活用に関する留意事項を記述させる試行を検討
  - ② 技術評価手法  
技術力の差を適切に評価し落札者の選定につなげるため、技術評価点の得点差が生じるような評価手法(1位満点方式等)の試行を検討
  - ③ 技術者評価  
高度な技術的マネジメントを要するプロポーザル方式業務の技術者評価において、事業促進PPP・PM・CM業務、及び海外業務のジ・エンジニアの実績を加点評価する手法を検討

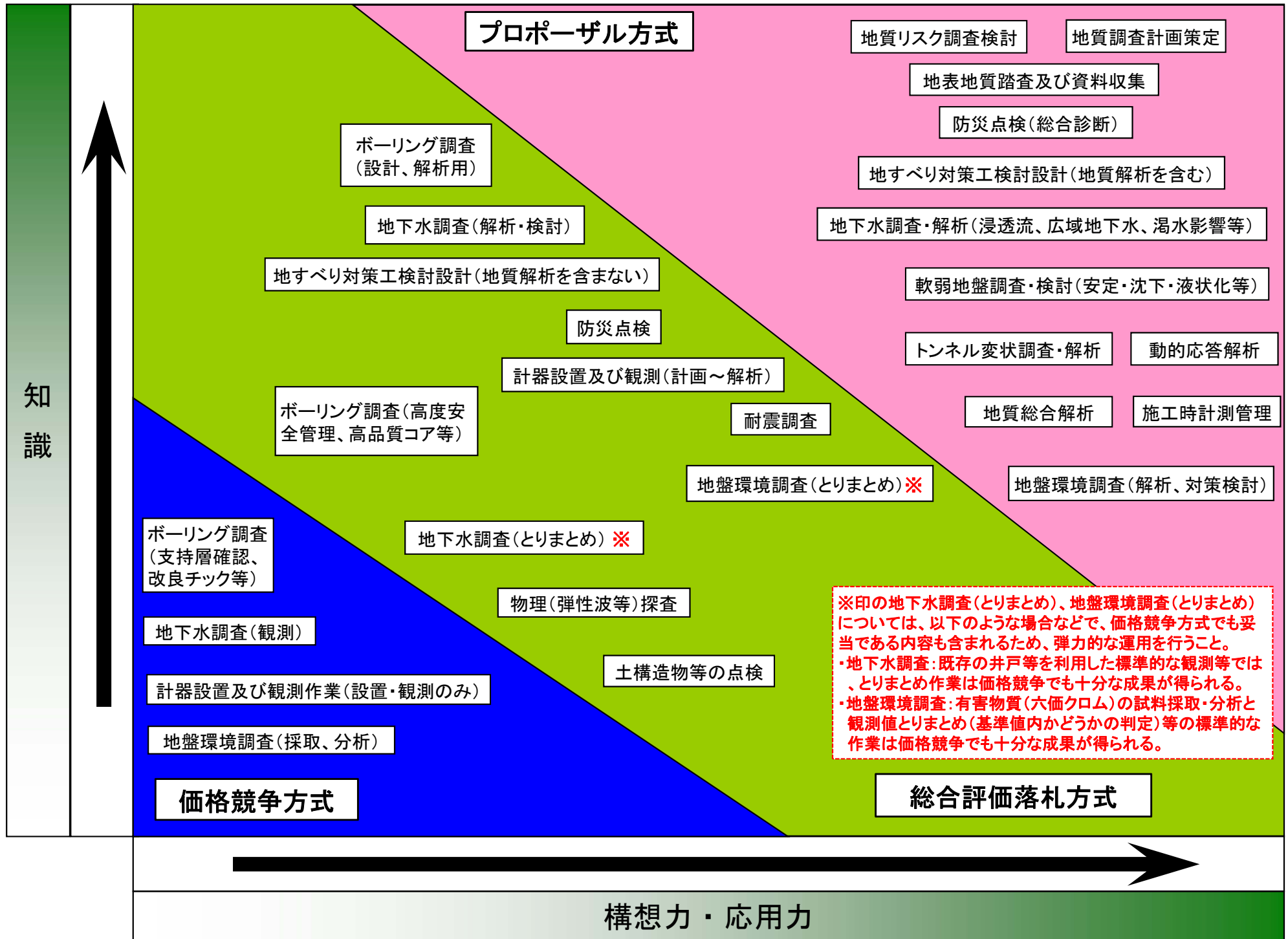
# (参考)プロポ・総合評価落札方式の運用ガイドライン概要

## 発注方式の選定フロー



※ 予定価格の算出においてその過半に見積を活用する業務であっても、業務の内容が技術的に高度ではないもの又は専門的な技術が要求される業務ではない簡易なもの等については総合評価落札方式又は価格競争方式を選定できる

(参考) 【地質調査】



※印の地下水調査(とりまとめ)、地盤環境調査(とりまとめ)については、以下のような場合などで、価格競争方式でも妥当である内容も含まれるため、弾力的な運用を行うこと。

- 地下水調査: 既存の井戸等を利用した標準的な観測等では、とりまとめ作業は価格競争でも十分な成果が得られる。
- 地盤環境調査: 有害物質(六価クロム)の試料採取・分析と観測値とりまとめ(基準値内かどうかの判定)等の標準的な作業は価格競争でも十分な成果が得られる。

